

第1回原子力防災訓練発表会議事メモ

日時 : 平成25年7月31日 13:00 ~ 18:00、8月1日 9:30 ~ 15:30

会場 : 原子力安全推進協会 第1~3会議室

<1日目(7月31日)>

・全体説明

・議長挨拶

- ・今回は、委員だけで議論するのではなく、各発電所、事業所から関係の方の参加の下で、各所で行われている原子力防災訓練の実施状況を紹介しあい、訓練実施に当たって工夫している点や、悩みなどを共有するなかで、自所の訓練について、よりよいものに改善していただくためのヒント・きっかけをつかんでいただければと考え、「原子力防災訓練発表会」として開催するもの。
- ・原子力防災対策は、福島第一発電所の事故以降、見直しが必要とされ、訓練はその実効性が要求されている。事業者においては、当協会が本年1月に策定した「原子力防災訓練ガイドライン」も参考としながら、より一層実効性ある訓練となるよう、取り組み始めて頂いていることと思うが、現時点において、皆さんと当協会が目指す、「世界最高水準」「エクセレンス」の追求という観点からみれば、改善の余地が多々ある状況ではないかとの認識にある。
- ・今回の会議で何かをつかみ、更に上を目指した活動につなげて頂くことを期待している。

・資料補足説明(事務局)

- ・事前質問、回答について

・訓練状況発表と意見交換

各発電所から、訓練概要の発表を受けた後、参加者の関心の高い事項について、掘り下げた意見交換が行われた。主な関心事項は次のとおり。

1. 泊

- ・訓練2時間半。時間が短い、苦勞された点は。
- ・本部長等の役割は規定していると思うが、例えば決められたものが規定どおりの対応をせず、別のものが当該対応を行ったような場合の評価はどうしているのか。

- ・ 訓練評価（チェック）リストの作成に関わった人数は？
どのくらいの期間を要したのか。当日、何人で評価したのか。
- ・ 大規模放出を想定した訓練の予定は。中期的な計画はあるのか。

2. 志賀

- ・ 初動対応リストにはどのような対応項目を上げているのか。
- ・ 情報が錯綜している中で、まず何をすべきかを判断できるようになっているのか。
- ・ 長期化、ロジスティクス（後方支援担当）な訓練は実施しているのか。
- ・ 公開訓練では、訓練の実効性が失われることがある。実効性を確認するため、工夫していることはあるか。
- ・ がれき撤去訓練は自前で、社員が実施しているのか。実効性の確認はどのようにしているのか。
- ・ 訓練を重ねることで、対応時間は短くなっているのか。
- ・ 安全強化策の有効性を確認したとあるが、何をもって有効性を確認したのか。目標設定はどうしているのか。
- ・ 訓練シナリオを作る際に、どのようにリアリティを持たせているのか。

3. 島根

- ・ 号機によって事象進展が異なる訓練を実施しているか。
- ・ 所長は訓練にプレイヤーとして参加しているのか。また、代行者の訓練は実施しているのか。
- ・ 反省会とは別に、評価チェックシートを使って評価をしていないのか。
- ・ シナリオを止めてディスカッションすることはないか。

4. 浜岡

- ・ 協力会社の何名が避難訓練に参加したのか。
- ・ シナリオ作成者は訓練に参加しているのか。
- ・ ワーキンググループは訓練実施予定日からどの程度前に立ち上げるのか。
- ・ 事務局は何名か。
- ・ 情報付与について人数が足りなかったとあるが、何名程度必要と考えているのか。
- ・ 長時間に及ぶ訓練の場合、食事はどうしているのか。訓練を中断することはあるのか。
- ・ 本店の訓練について

5. 伊方

- ・ 自治体と共同で行う訓練では、プラントの運転状態は、どのように想定したのか。
- ・ SA 対策要員に求められる力量は定められているのか。

6. 川内 及び 7.玄海

- ・代替緊対所の設置場所について
- ・10条通報、15条通報時の周知の仕方、避難場所について
- ・管理区域内の避難実施状況のチェックの仕方について
- ・管理区域内の避難方法について
- ・ページングが使えない場合はどうするのか。
- ・営業所員への教育は実施しているのか。
- ・対応者の判断能力はどのようにして確認したのか。
- ・評価者のための教育は考えているのか。

(事務局委員一日目総括)

- 発表を通じて事業者が熱心に訓練に取り組んでいることが伝わってきた反面、悩みが多いことも伝わってきた。
- 要素訓練、総合訓練を使い分ける必要がある。
- 総合訓練の目的は様々（要素訓練の寄せ集め、組織間の連携など）であるため、何を目的として実施するのか整理した方が良い。
- 報道機関を意識して、訓練の目的が達成できないというのではいけない。目的・目標を説明し、報道機関にも納得してもらう。
- 災害時に報道機関は指定公共機関としての情報発信の義務があるため、報道機関も当事者である。

<2日目(8月1日)>

8.本店・美浜

- ・緊急時データベースについて
- ・データベースの入力項目は。システムは、どんな方法で構築しているか。
- ・評価の課題抽出について
- ・SPDSでは見ることができないパラメータの扱いは。
- ・訓練ノウハウの他社との情報共有はしているのか。
- ・実際は6時間要する事象について、実時間で訓練をする計画は。
- ・後方支援要員について

9.高浜 及び 10.大飯

- ・衛星通信設備について
- ・携行型通話装置とはどのようなものか。
- ・現場指揮所(者)について、その権限を、規定しているのか。また力量の確認は。

11. もんじゅ

- ・シナリオ非開示訓練について、訓練実施日のどのくらい前から検討会を設置したのか。

12. 敦賀

- ・訓練の（各ミッションの）所要時間の測定をしているのか。

13. 東海第二

- ・災害対策支援拠点の場所の検討について、支援拠点の選定ルールはあるのか。
- ・支援拠点は複数箇所あるようだが、訓練ではどのようにして場所を選定したのか。
- ・発電所と本店との間での情報共有について

14. 東通 及び 15. 女川

- ・評価をどのようにして実施したのか。組織間の連携をどのようにして確認したか。
- ・休日当番体制での訓練について
- ・女川のモニタリング訓練について、どのような拡散評価をしたのか。
- ・東通の緊急呼び出しの手段は。
- ・緊急時被ばく訓練について、所外の他組織との連携は実施したのか。
- ・ブラインド訓練を実施するにあたって、シナリオの検討体制は見直したのか。
- ・公開訓練では、事前にリハーサルをするなど、見せるための訓練になってしまい、ブラインド訓練にならないのではないか。
- ・ロボット訓練について
- ・安全対策設備について、実際に負荷をとって訓練をしているのか。

16. 柏崎刈羽

- ・ICSについて、担当者を1~4、5~7号機に分けているが、同時発災時に統括者が全てを確認するのは困難ではないか。
- ・リスクコミュニケーターは専門教育を受けた方が担当するのか。
- ・ICSの導入によって本部内の「座席配置」はかわったのか。
- ・情報共有のツールについて
- ・初動対応時、指揮者が通報文の確認と、プラント挙動の確認を同時やるのは難しい。工夫していることは。
- ・「本店等から干渉」について、訓練ではどのように模擬しているのか。
- ・教育について、新規ツールの作成、ICSの導入、SA事象に対する知識、防災訓練に対する教育や力量管理はどうしているのか。

事務局委員全体総括

- 要素訓練と総合訓練の特徴を活かし、訓練を組み合わせることで体系的な訓練の中長期計画を作成することが重要。
- 各社悩んでいる「公開訓練」については、訓練の目的・位置付けを明確にし、理解してもらうこと。
- ブラインド訓練は、要素訓練を積み重ねて総合訓練としてブラインド訓練を実施するのが理想的であるが、要素訓練でブラインド訓練を実施して判断能力を養うのも効果的である。初動対応時に判断能力が低下、指揮命令が錯綜する中で適切に行動できるようにすることが目標となる。
- 他発電所の良好事例の共有と皆さんが抱える課題解決の糸口を掴んで頂くことが出来たのであれば、事務局として幸いである。
- 各業務分野での横の連携が大事である。各事業者の専門家同士が連携を取り合い、教え合い、互いに高め合ってゆく。この場には緊急時対応、防災対応の専門家の皆さんが集まっているので、気軽に情報交換できる間柄になっていただき、各社の原子力防災の実効性を高めあっていただきたい。
- 今回の発表会は、私どもとしても試行錯誤のなかで行った。皆様の意見を参考にし、皆様の自律的改善に役立つようなものに育てて行きたいと考えている。

以 上